

### 3. 会津唐人風 とうじんだこ

#### (1) 鶴ヶ城に凧あがる たこ

明治元年（1868）8月、会津の鶴ヶ城は、城の東側にある小田山から砲弾が雨あられのようにうち込まれ、そのたびに城内各所から黒煙が上がりました。砲弾がうち込まれるばかりでなく、城は十重、二十重に囲まれて蟻のはい出るすきまもなかったのです。

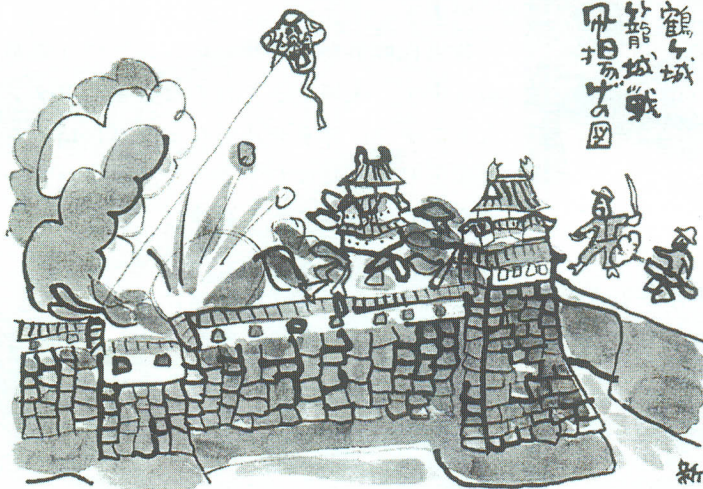
籠城していた会津軍もけが人が続出し、決死の部隊が時に城外に出撃して、戦いをいどみましたが、大勢をくつがえすまでにはいたらず、孤立無援の絶望的な籠城戦が果てしもなく続くといった毎日でした。

そんなある日、鶴ヶ城の本丸から、するすると凧が上がりました。

凧は砲煙をかいくぐって大空高く舞い上がり西軍をあ然とさせるとともに、城内の将兵の士気を高めるために籠城中の少年があげたのです。その時の凧が会津唐人凧で、あげた少年は、藩校日新館生徒の池上四郎（後の大阪市長）であったと伝えられています。



唐人凧「べろくん出し」



鶴ヶ城  
籠城戦  
凧あがるの図

#### (2) 会津唐人凧

会津唐人凧は、江戸時代から昭和初期にかけ、若松近郊であげられていました。

鬼が兜にかみついて離れない図柄の唐人凧ですが、大胆な構図の絵に見える素朴ないろどりの美しさと、空高く舞い上がるうとする力強さが、郷愁あふれる童心を思い起こさせてくれました。

図柄は近年増えて約20種を数え、べろくん出し、日の出波、武者絵、風神、火伏の竜などが多く描かれています。べろくん出しが代表的な図柄で、目をむきだし大きな口